



木炭を利用して水質を浄化するなど「森からの新ビジネス展開事業」の説明をする里山森林整備実行委員会

葛巻の取り組みを報告 森林の恵みフォーラム

葛巻町森林組合（中崎和久組合長理事）は2月16日、グリーンテージで「森林の恵みフォーラム」を開きました。

「京都議定書」の発効から1年を経過したこの日、地球温暖化防止の重要な役割を担う森林の資源や恵みの活用について、「葛巻からできることを発信していこう」と開かれたもので、林業関係者ら約80人が参加しました。

フォーラムでは、地球温暖化防止に取り組む「NPO法人環境パートナーシップいわて」の活動紹介、町の木質バイオマス利用の経過報告、里山森林整備実行委員会（竹川高行委員長）の「森からの新ビジネス展開事業」、安孫自然塾（外久保篤雄塾長）など、現在の活動状況が報告されました。

身近な事例で学習効果 環境に優しいお宅訪問

第4回身近な環境を考えるセミナーは2月18日、「環境に優しいお宅を訪問しよう！」をテーマに行われました。

はじめに、新エネルギーを導入する際の補助金制度などについて、環境エネルギー政策課の職員が参加者に説明しました。

その後、町内の一般家庭4世帯とグリーンテージを訪問し、太陽光発電やエコキュート（大気の熱を利用してお湯を沸かすシステム）、3種類のペレットストーブを見学しました。

参加した山下セイ子さん（55歳・田の沢）は「一般家庭で利用している方々から実際に設備の仕組みや感想などを聞くことができ、大変参考になりました」と話していました。



ペレットとまきの両方使えるストーブ。煙突などからの熱で2階部分も暖かいと説明する折元金喜千さん（遠矢場）



畑神楽の踊り手として「鶏舞」を披露する馬淵小児童

子どもの健やかな成長 家庭と地域で見守ろう

子どもの未来を考える町民の集い（町青少年育成ネットワーク、町教委主催）は2月19日、町総合センターで開かれ、約170人が青少年の健全育成について考えました。

集いは、表彰（関係記事6ページ）の後、岩手警察署長の吉田修さんが「正直、知足、健康」と題して講話し、事例を交えながら、子どもの健全な成長に家庭教育が大切であることや地域での見守りが大事であることを述べました。

実践事例発表では、田子地区と星野地区の青少年育成会が子ども会行事や自治会と連携した取り組みを紹介し、活動の成果や課題を発表しました。また、畑神楽保存会が郷土芸能の「鶏舞」を披露し、盛大な拍手を浴びました。